平成２８年度第４回宗像市幼児教育審議会

議事録（要点筆記）

期　日：　平成２８年１１月８日（水）
時　間：　１９：００～２１：００
会　場：　宗像市役所本館 103A 会議室

審議会委員					
船越　美穂	○	河本　博子	○	納富　恵子	欠
新塘　元哉	○	元岡　充代	○	横川　哲朗	○
髙杉　洋史	○	幸　政恵	○	綱脇　陽子	○
檜山　理恵	○	安藤　周治	○	髙松　美香	○

事務局			
清水　比呂之	村上　治彦	薄　伸也	早川　靖彦
橘　正代	松尾　恵実		

【事前配布資料】
・第３期宗像市幼児教育振興プログラム（案）
・第３期宗像市幼児教育振興プログラム（案　赤・黒字修正見え消し版）
【当日配布資料】
・第３期宗像市幼児教育振興プログラム（案　赤・青・黒字修正見え消し版）

１　挨拶（省略）

２　前回議事録の確認
前回議事録については修正なしで承認された。

３　議事
■宗像市幼児教育振興プログラム（素案）の審議
≪事務局からの説明≫
・今後のスケジュールについて
今回の４回目の審議会で出された意見を取りまとめ、答申とさせていただく。それを受け、１２月中旬から約１か月間、パブリック・コメントにかける。（１２月１５日号広報紙に掲載）

・市役所内部の会議（経営会議）にかけた結果の報告
①第６章　１（２）に「歴史・文化遺産」の文言を入れた。（「歴史的文化遺産」を施政方針の言葉の使い方から、「歴史・文化遺産」と変更した）
②対象施設について、保育所、幼稚園、認定こども園と表記していたが、本プログラムが家

庭や地域を含む、０歳から小学校就学前の幼児教育に関わるすべての機関を対象とした総合的な幼児教育の指針であることから、認定こども園の後に「等」を入れた。

③第６章１（２）に「人的、物的に環境を整えることを推進する」との表記で、保育士の量の確保に対する文言とする。

④保幼小連携という言葉について、平成２８年度に認定こども園が開設されたことから、保幼認小連携という表記にしてはどうかという意見が出た。このことについて、審議会に確認する。

◇第１章

≪事務局からの説明≫

・計画については、年度と正式名称を表記した。また、「家庭、地域、園、行政」の並べる順番を整理した。

・保育園等の数については、年度によって数が変更する可能性があるため、数の表示を削除した。

・幼児教育は「学ぶ」というより「遊び」を中心としたものであるため、「学んだり」の部分を「遊んだり」と表記した。

≪質疑・意見等≫

・実体験不足やコミュニケーション能力の不足については、宗像に限ったことではなく、全国的な傾向か。

⇒全国的な問題でもあり、宗像市に特化したものではない。

・4 段落 10 行目「支えあい、多様なあり方を認め合う」の「あい、合う」の表記を統一したほうがよい。

⇒「合う」と漢字で表記する。

◇第２章

≪事務局からの説明≫

・３番目の項目が第２章のタイトルと同じだったので、「本市計画との関係」と改めた。

≪質疑・意見等≫

意見等、特になし。

◇第３章

≪事務局からの説明≫

・２段落目の「遊びや生活」を１段落目の表記に合わせ、「生活や遊び」と並べ替えた。

・３段落にあった「幼児の生活は、～極めて重要である。」の文章は必要ないとの意見をいただいたので、削除した。

・５段落目の「生きがい」の言葉が重たく感じるとのことだったので、その部分を削除し、「子どもの育ちに気付き、喜びを感じることができるよう」と文面を変えた。また、内容が重なる文章を省いた。

≪事務局から審議会委員へ確認事項≫

・保幼小連携について、「保幼認小連携」とした方が良いかご意見をいただきたい。

≪意見・質疑等≫

・保幼認小連携という言葉について、現在どの程度使用されているのか。

⇒まだほとんど見受けられない。

・脚注を付けることで今までどおりの言葉を使うのか、新たに用語を作るのかという話で良いか。

・幼児教育と小学校教育の連携とした方が良いのではないか。

・幼児教育という言葉でまとめてしまうと、保育の部分が薄れてしまうのではないか。

・「保幼認小連携」という言葉にするとしてもなじみのない言葉のため脚注がいるのではないか。

・文部科学省は連携については保幼小、接続については幼小という言葉を使っている。

・平成２２年の文部科学省の指針には、「保幼小」と言う言葉が出ている。

【結論】

保幼小連携という言葉のままで脚注をつける。（委員及び事務局の意見一致）

◇第４章

≪事務局からの説明≫

・囲いの下の文章に、「歴史的文化遺産」の言葉を加えた方が良いとの意見があったので、その言葉を入れた。（施政方針により、「歴史・文化遺産」と表記を変更）

・「自然現象」「社会現象」の言葉について、「自然事象」「社会事象」とどちらが良いか検討した結果、現象の方が広い範囲を表すため適切と判断した。文章としての流れを考え、「自然現象」を「自然の現象」へ、「社会現象」を「社会の出来事」と分かりやすく言い表した。

≪意見・質疑等≫

・囲い下の文章の５行目に郷土を愛する心という言葉が入っているがなぜか。

⇒世界遺産学習との関連で入れた。

・郷土を愛する心とは、乳幼児期においては具体的にどのような姿か。

⇒昨年、中学生が作成した絵本があるが、より低年齢層向けのものを作成し、それを通して宗像の歴史・文化を知ってもらいたい思いを込めている。

・宗像は体を動かして遊べる場所等がある。絵本だけでなく、他にもあるのでは。

・まずは地域の歴史や文化に触れることで郷土を愛する心が育つのではないか。

・「粘り強くやり抜く力」の言葉の後に、「郷土を愛する心」という表現はそぐわない。乳幼児には「ふるさと」の表現の方が良い。

・郷土を愛する心の部分だけ、急に異質なものを取って付けた様な表現になってしまっている。

・宗像は神の住むまちということで誇りに思っている人もいる。文章に取り入れられるところはないか。

・郷土というのは市をアピールするのに良い言葉である。

・子どもは父、母、友達、近所など身近なものから好きになっていく。歴史的遺産は幼児にとって、遠い存在である。ふるさとという表現のほうがより適切である。

・宗像市ならではの表現に思える。そもそも幼児と世界遺産は関係ないのではないか。

【結論】

「郷土を愛する心」は削除する。

・囲みの中の部分で、黒丸の下４行「自分を大切にする心～を育んでいきます。」の説明は必要か？子どもが何を育むべきなのか分かりにくい。

・下４行を単文にしてしまうと、単文と単文が続く。下４行は文章に戻した方が良い。

・【共通目標】を一番下に持っていき、下４行を文章に戻して、位置を入れ替えたらすっきりするのではないか。

【結論】

下４行を当初の文章へ戻し、【共通目標】の場所と入れ替える。

◇第５章

≪事務局からの説明≫

・第１期、２期のタイトル横に時期について明記した。

【第一期】

・パンフレットの作成と配布目的を「家庭教育力向上のため」と入れた。

・言葉について整理をし、保育者を保育士へ、家庭を保護者へと置き換えた。

【第二期】

・保幼小の連携・接続を継承、発展させたことについて表記した。

≪意見・質疑等≫

・電子メディアについて、今後４年間でもっと大きな問題になると考えられる。講座など取り組みを始めていることを入れてはどうか？

・10 か月すくすく相談会の中でメディアに関する指導を行い、翌日カフェ形式で相談を受けたりもしている。

⇒メディア等について、どのように表記するかを、再度、事務局で検討する。

◇第６章

≪事務局からの説明≫

・全体として、この幼児教育振興プログラムの対象が、家庭や地域を含む、０歳から小学校就学前の幼児教育に関わる保育所・幼稚園・認定こども園等すべての機関であるため、「認定こども園」の後に「等」を付けた表記にした。

１．保育所・幼稚園・認定こども園等における充実した幼児教育の提供

≪事務局からの説明≫

（２）について

・当市が沖ノ島など歴史的文化遺産に取り組んでいるため、「歴史的文化遺産」の言葉を加えた。（施政方針での言葉の使い方から、「歴史・文化遺産」と表記を変更）

・非認知的能力の前の説明文が長かったので、似た意味の言葉を整理し、「粘り強さ」と「計画性」を削除した。

≪意見≫

・（２）について「本市の歴史的文化遺産」より「自然」の言葉を先にすると良い。

２．発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実

≪事務局からの説明≫

（１）①では、表記が長くても誤解のない表現とするため、このタイトルとした。また、「環境に慣れるため」を「円滑な接続を図るため」とした。

（２）幼小接続をわかりやすく表すため、「幼児教育と小学校教育の接続」と言い換えた。

≪意見・質疑等≫

特になし

３．保育者（保育所保育士、幼稚園・認定こども園等教員）の資質及び専門性の向上

≪事務局からの説明≫

・タイトルの保育者（保育所保育士）後にある「・」を「、」で表記した。また、（１）の国、県を順に並べた。

≪意見・質疑等≫

特になし

４．保育所・幼稚園・認定こども園等における家庭や地域社会の教育力の再生・向上

≪事務局からの説明≫

・目標４の中の「当該園児」の言葉を分かりやすい言葉の「在園児」とした。また、（１）

②の「養育」を「保育」に変えた方が良いという意見により変更した。

・中学生の子育てサロンのことについて、全中学校で実施ができていないことと、この項目で挙げるのが適切であるか検討した結果、削除することにした。

≪意見≫
・中学校を利用しての子育てサロンについては、時間割の調整等問題があり、なかなか実施することが難しい。一部の中学生が活用しているが、中には子どもが苦手な中学生もいる。

５．特別な支援及び特別な配慮が必要な子どもに対する総合的な支援の推進
≪事務局からの説明≫
・目標の１行目と（１）４行目の「より効果的で」という言葉を削除した方が良いということから、その言葉を削除した。

・目標１行目と（１）の５行目で、「特性に合った」の後に「適切な」という言葉を入れた。
・目標中、「乳幼児一人一人の環境」の「環境」の前に「特性や生活」を入れた方が分かりやすいとのことだったので、そのようにした。

・（２）タイトルの「環境」の前にも「生活」の言葉を入れた。

≪意見・質疑等≫
　特になし

６．家庭や地域の教育力の再生・向上
≪事務局からの説明≫
・６つめの柱のタイトルとして、「生涯学習振興施策における」と付いていた部分を、分かりやすい表現とした方が良いことから削除した。

・タイトル、目標及び（２）タイトルに「地域社会」とあった部分を、現在は「地域」で一般的に理解を得ていることから「社会」を削除した。

・言葉づかいについて、「親、保護者、家庭」を整理し、①については、「親」を「保護者」へ、②については、「家庭」を「保護者」へ置き換えた。

・（１）②の文言中、「不安や悩みから」との部分を「不安や悩みが原因で」とわかりやすい表現に変えた。

・（２）については、①５行目と②１行目の「地域住民」とあるところを「地域の人々」と表記した。

≪意見・質疑等≫
　特になし

■脚注について
≪事務局からの説明≫
・脚注はページの下の部分に記載する予定。

≪意見≫
・脚注をつけている文言が多いので、つける言葉を絞った方が良い。

・宗像市においては、平成２８年度に認定こども園が２園開設した。内容が分からない市民も多いと思われるため、脚注に入れたほうが良い。

・全体的に鍵括弧をつかう用語の定義が曖昧なため、統一した方が良い。

■具体的な施策について
・協議をしやすいように、継続・新規事業欄に項目を挙げている。具体的な内容は幼児教育研究協議会でたたいていくが、審議会からも意見をいただきたい。

≪意見等≫
・外国籍の子どもたちへの支援について、具体的にどのようなことを検討しているのか。
⇒入園案内の冊子等を英語等の言語でも作成していきたいが、まだ構想の段階である。

・幼児教育を提供するということについて違和感がある。家庭教育は親が行う教育で、その選択肢の中にいろいろな施設があるのではないか。読み書き等は普段の生活の中で教えていくものである。

・保育所や幼稚園については、誕生日会等で先生達とふれあう機会があるが、小学校の先生のことについては知る機会がない。ママ・パパ応援 BOOK に小学校の先生の大変さが分かるようなコラムや、特別な支援を必要とする子どもの理解に一歩踏み出すきっかけとなるような情報が書いてあると良い。地域の方の言葉なども載せると、読み物としても面白いのではないか。

・ママ・パパ応援 BOOK について、英語版などがあると良い。
⇒外国の方への施策として、市としては、まずは防災関係から取り組もうとしている。

・子どもの教育に関して親は心配である。外国から日本に来られる方が、来日前に情報を得ることができるものがあると良い。

・継続事業の中のメディア対策について、アウトメディア対策という言葉にしたほうが良い。

・幼児教育振興プログラム（案）については、タイトルに第３期を入れたほうが良い。

■その他

・次回は２月６日の週で開催予定。議事録送付時に日程調整の用紙を送るので、電話またはファックスで回答をいただきたい。

・具体的な施策に関しても、用紙を送付するので、第５回開催までにご意見をいただきたい。後日、送付された意見及び１２月のパブリック・コメントでの意見をまとめた資料を送付するので、確認していただきたい。

・マイナンバーの用紙を未提出の方は、子ども育成課に提出していただきたい。